

第10回 市長対談

津市の農業の未来と担い手の育成



三重県指導農業士連絡協議会会長
前川 正次さん

津市長 前葉 泰幸

7月23日、三重県指導農業士連絡協議会会長の前川正次さんを前葉泰幸市長が訪ね、津市の農業の現状とこれからの農業についてお話を伺いました。

大規模農業のメリット

市長 前川さんのところでは、どれくらいの広さの農地を耕作されているのですか。

前川 現在74ヘクタールです。

市長 津市全体の耕地面積が8,640ヘクタールですから、その約1%、津球場ですと約57個分になりますね。どのような作物を作られているのですか。

前川 主に米ですね。麦や大豆のほか牛用の飼料米なども作付けしています。

市長 これだけ大きな面積の作付けは、会社組織を立ち上げて経営という形で行われて



いるわけですが、この農地はご自身が所有する土地以外に借りてみえる土地があるとお聞きしていますが。

前川 はい。自分が所有する農地は0.5ヘクタールで、残りの約73ヘクタールは高齢のために農業ができなくなって、私のところに「任せるから」と言っていただいた方などからお借りしています。きちんとした仕事をして、必死に農業を行っていたら、自然に今の規模になってきたという感じです。

市長 規模が大きいことによるメリットは、どのようなものがありますか。

前川 面積が大きくなればなるほど、大きな機械を導入し、効率的に作業が行えますし、時間も短縮できるというメリットがあります。

市長 田を畑としても使われていますが、いろいろと工夫が必要ですね。

前川 土を乾かすために、暗きょという排水施設を地中に埋め、これで水の管理をしながら、田を活用しています。